



おおにしの笑顔

第12号 令和6年2月28日 文責 恩田

- ⑥ もいやりのある正しい子
- ⑥ おきな声であいさつする子
- ⑥ ンたい強くかしこい子
- ⑥ っかり体をきたえる子

2月朝会の話「群馬県のじまん」

2月16日に体育館で朝会を行いました。写真等を提示しながら以下のような話をしました。

今日は、群馬県の特に自慢のものの話をします。それは、150万部発行されていて、発行部数は全国で1番です。昭和22年、戦争がおわった2年後に発行されました。それは…上毛かるたです。上毛かるたは日本一多く発行されていて、日本一有名な郷土かるたです。上毛かるた大会の県大会も全国で1番多く開催されています。

(写真を提示し)これが発行当時の札の絵です。昔と今は札の絵が変わっています。さて、上毛かるたは今は840円ですが、昭和22年の発売当時、いくらだったと思う?なんと5円。子どものお小遣いで買える金額でした。いったい上毛かるたを作った人はどんな人なんでしょう? どうして作ろうと考えたのでしょうか?

上毛かるた発行の中心となった浦野匡彦(うらのまさひこ)さんは、群馬県吾妻郡長野原町というところに生まれました。大変努力家だった浦野さんは、学生の時に中国に留学をし、大人になると仕事の関係ですっと中国で暮らしていました。中国にいるときもずっとふるさとの群馬のことを思っていたそうです。戦争が終わったのをきっかけに、日本に帰ってくることになりました。人一倍群馬を愛し、群馬を誇りに思っていた浦野さんは、愛する群馬県のためにつくしたい、群馬のために働きたいと強く思ったそうです。そして、大変な思いをして群馬県に戻ってきました。そこで、浦野さんが見た群馬は・・・浦野さんが群馬に帰ってきた時、つまり戦争が終わったばかりの群馬の様子のビデオを見てみましょう。(ビデオ)浦野さんは、群馬の荒れ果てた姿、貧しい様子を見て、これらの人々を助けることが自分の仕事だと思っていました。そして何よりも、みずぼらしく痛々しく、元気のない子供達の姿を見て、浦野さんは「**郷土かるたをつくって、群馬県の子供を元気にしたい!**」と強く思いました。

上毛かるたはこんな強い思いからできたから、日本一の郷土かるたになったんだね。上毛かるたは群馬県の自慢、誇りです。上毛かるたで群馬県のいいところをたくさん覚えて、自分たちの住む群馬県を誇りに思っていてほしいと思います。



<昭和22年の「つ」の札>



<浦野匡彦さん>

群馬県は上毛かるたに示されている内容の他にも、全国に自慢できるようなもの・事・人がとても多く、本当に素晴らしい県です。以前にも紹介した道徳の教科書のもとを作った初代県令「楫取 素彦(かとり もとひこ)さん」など、子供たちに知っていてほしいと思います。そして、自分の住んでいる町・地域を好きになり、誇りをもってほしいと思っています。

引っ越し作業のお手伝いをありがとうございました

2月15日に大きな引っ越し作業を行いました。2年生とつつじ1組が改修してきれいになった教室に戻り、6年生が西体育館の仮教室に移動しました。午前中は、児童と職員で行い、子供たちも荷物運びを一生懸命やってくれました。午後は、PTA 役員さんがボランティアでお手伝いをくださり、図書室の本等の移動・整理ができました。温かいご支援に心より感謝申し上げます。



＜机や荷物を運ぶ子供たち＞



＜本の整理をするPTA役員さん＞

2年生とつつじ1組の児童は、新しい教室で嬉しそうに勉強を始めています。6年生は卒業間近の教室移動となりましたが、めったにできない貴重な経験ととらえて、前向きに生活しています。

素晴らしかった！6年生を送る会

2月27日に「6年生を送る会」が行われました。今年度より、コロナ前と同様に6年生の保護者の方に参観していただくことができ、本当に良かったです。



＜6年生の出し物 在校生へのメッセージ＞

5年生が中心となり、会場の飾り付けや会の進行を頑張ってくれました。在校生は6年生へ、6年生は在校生と職員・学校への感謝の気持ちを表すために、一生懸命に素晴らしい演技をしてくれました。とても心温まる素敵な会となりました。

来年度（令和6年度）の教育課程について

令和6年度も大規模改修工事に伴い、多くの教室移動があることなどから、年間行事予定が例年や昨年と変わるところがあります。ご承知おきください。

1. 運動会について

校庭が半面しか使えないために、全校一斉の運動会ができなくなり、1学期の平日に、学年ブロック別開催となります。トラックが狭く徒競走ができないために、表現と遊競技を行う予定です。

2. 保護者面談の時期について

工事に関わる教室や職員室の引っ越し等の事情から、担任と保護者の方との面談を1学期の終わりから夏休み始めにかけて行うこととなります。

3. 職員の事務処理日について

働き方改革の観点から、職員の超過勤務時間を減らしていきます。そのために、学期のはじめと終わりに職員が事務処理の時間をとれるように、児童の早帰りの日を増やします。現在は、法で定められた年間の授業時数を大幅に超えて授業をしているので、授業軽減の意味もあります。

※名札についてのお願い

学校は全職員で全児童を見て、関わっていきます。西小は児童数が非常に多いために、クラスがわからない児童が倒れた、けがをしたという場面に遭遇することもあります。どの職員でも児童の学年・クラス・名前がすぐにわかる必要があります、そのために、名札がとても重要なものになります。毎年名札には、今の学年やクラスを書いておくようお願いいたします。児童の安全確保のためにご協力をお願いいたします。